

中国語における改革開放後新出の 日本来源語について

呉 夫 迎

要旨 本稿は、改革開放後《現代漢語詞典》第六版(2012年)に収録された来源未明記の日本来源語疑似語(非中国語固有語または中国語の造語法により解釈できない語)を研究対象とし、その中の一部が確実に日本から伝わってきたことを論証することに重きを置くものである。

本稿では、《現代漢語詞典》第二版(1983年)と《現代漢語詞典》第六版とを比較することにより、第六版に新出した来源未明記の日本来源語疑似語を探し出して、使用頻度と使用範囲という視点から代表性のある新語を取り出し、辞書、史料、コーパスなどを利用して日本語から伝来したことを証明する。また、「日」と来源が明記されていない語が《現代漢語詞典》第六版には少なくないことも発見した。

最後に、日本来源語が中国語に伝わった原因や、《現代漢語詞典》第六版において「日」という来源の明記から漏れた原因を考察した。これは、中日語彙の交流過程、現代中国語語彙の変化の把握及び漢語外来語詞典、現代漢語詞典の編纂に役立つであろう。

キーワード 日本来源語疑似語 コーパス 現代漢語詞典

改革开放后汉语新词中的日语借词研究

摘要 本文以改革开放以后近四十年来, 收录入《现代汉语词典》第六版(2012年)中的未标注来源的疑似日语借词(非汉语固有且用汉语构词法无法解释的词)为研究对象, 着重论证其中的部分新词确实来源于日语。

本文通过比较《现代汉语词典》第二版(1983年)与《现代汉语词典》第六版, 找出第六版中新出现的、未标注来源的、疑似来自日语的词, 并从使

用频率及广度的角度拣选一些具有代表性的新词，利用词典、历史文献、语料库等证明它们确实来源于日语。同时发现《现代汉语词典》第六版中的确有不少来源日本的词未标注出来。

最后本文试探性地分析了日语借词进入到汉语中的原因、《现代汉语词典》第六版中不予标明来源的可能性原因以及笔者对此的看法。这对于了解中日词汇的交流过程、现代汉语词汇的变化以及对汉语外来词词典、现代汉语词典的编纂具有一定的借鉴作用和参考价值。

关键词 疑似日语借词 语料库 现代汉语词典

1. 序論

中国が改革開放を実施して以降、中日両国は政治、経済、文化、教育の人材における往来が増えつつあり、両言語の接触も日増しに頻繁になってきている。文化交流の過程においては、また数多くの日本語語彙が中国語に入り新たな日本来源語となった。これらの新語は新たな事物を代表したり新鮮なニュアンスを帯びたりしており、中国語の中で新生語として流行っている。これは中国語の表現の豊かさ、中国語の語彙の発展、中国語の表現力の増強にも繋がっている。新しく取り入れられたこれらの日本来源語は中国語の新語及び現代経済活動において特殊かつ重要な役割を果たしている。

1.1 研究目的とその意義

本稿では、《現代漢語詞典》第六版（2012年）に新出した来源未明記の日本来源語疑似語を研究对象にし、使用頻度と使用範囲という視点から代表的な新語を取り出し、確かに日本語から伝わってきたことを証明するとともに、基となる日本語との差異を比較し、さらに中国語がこれらの新語を取り入れた背景と過程を論述し、日本来源語が中国に伝わった経緯や、《現代漢語詞典》第六版において「日」という来源の明記が漏れた原因を考察する。これは、中日語彙の交流過程、現代中国語語彙の変化の把握及び外来語の関連研究、漢語外来語詞典と現代漢語詞典の編纂に役立つであろう。

1.2 研究方法

改革開放後中国語に入った日本来源語疑似語について研究を行うため、筆者は、《現代漢語詞典》第二版（1983年）と《現代漢語詞典》第六版（中国社会科学院語言研究所詞典編輯編、商務印書館出版）を選び、対比研究を行うことにした。1983年第二版は1978年12月の第一版の再印刷版であり、原版がダメージを受けたため再版されなければならなかったものである。第二版が改革開放開始直前までの語彙を収録しているのに対し、2012年第六版は今までの最新版であり、改革開放開始後から2012年までの語彙を収録している。この2バージョンは本研究を行うのに適当なものである。

そこで筆者は第二版と第六版を比較し、サンプリング調査法で第六版全書（総1755ページ）の四分の一に及ぶ438ページを調査することにした。そして、第六版に新出した来源未明記の日本来源語疑似語を探し出し、使用頻度と使用範囲という視点から代表的な新語を取り出し、研究分析する。また、『新明解国語辞典』第七版（三省堂、2011年）などの日本語辞典、《古代漢語詞典》第二版（商務印書館、2014年）、《辞源》合訂本（商務印書館、1988年）及びコーパスを利用し、これらの新語が確かに日本から伝わってきたことを論証する。最後に、対応する日本語語彙との差異を比較し、さらに現代中国語がこれらの新語を取り入れた過程とその原因を探る。

2. 先行研究

20世紀から今までの日本来源語についての研究成果は主に50、60年代に集中している。この時期の外来語研究における最大の研究成果と公認されているのは、1958年に劉正琰・高名凱により出版された《現代漢語外来詞研究》という著書である。この著書で日本来源語は全面的に系統的に収集・分類された。その後、劉正琰、高名凱、史有為などが《現代漢語外来詞研究》の研究成果を踏まえて、1984年に《漢語外来詞詞典》を編纂した。この辞典では日本来源語をさらに収集し、計832語収録している。

1991年に史有為が編著した《異文化的使者——外来詞》は、語彙文化交

流の面から外来語の研究を展開させ、高い水準に達した。1997年には同じく史有為編著による《漢語外来詞》が出版され、漢語外来語研究における指針的な学術書となっている。

日本来源語についての研究には中国の学者だけでなく、数多くの外国の学者も注目している。早稲田大学教授の実藤恵秀は中国人の日本留学史をまとめた。そして、著書『中国人日本留学史稿』『日本文化の支那への影響』『明治日支文化交渉』『近代日中交渉史話』などにおいては、日本語の中国流入のルート、方法、中国語における受容の可能性、中国語が日本来源語を取り入れる過程、日本語語彙に対する反応などについて深く考察し、中国の研究成果についても詳しく紹介した。

また、この時期に、論文も多数発表された。例えば、朱京偉の《近现代以来我国音楽述語的形成与確立》(1998)、《西洋楽器中国訳名的形成与演変》(1999)、《日本明治時期以後近代植物述語的形成》(1999)、《近代日中新語的創出与交流》(2003)などがある。朱氏は主に中日語彙の交流史の視点から研究を行っている。この他、《論由漢字帶來的漢語日源外来詞》(周玉琨、1998)、《二十年来新流行的日源外来詞》(周剛・吳悦、2003)、《漢語中日語借詞研究》(顧江萍、2007)などもある。

中日両国の学者は中国語に入ってきた日本来源語について大量の研究を行い、かなりの成果も収めている。しかし、《現代漢語詞典》第六版に新出した来源未明記の日本来源語疑似語についての研究はあまり見られない。

3. 調査結果

筆者が、サンプリング調査法で《現代漢語詞典》第六版全書の四分の一に当たる438ページに出ている語彙を第二版と比較したところ、第六版に新出した新語が35語あることが分かった。そのうち、「日」とはっきり来源が明記されたものは「便当」「刺身」「寿司」「宅急送」「数独」「天妇罗」「榻榻米」「物語」の8語だった。残りの27語のうち、25語は中国に古代からある語彙ではなく、《古代漢語詞典》にも収録されていない。2語は古代中国語

にあったものの、その意味は現在のものと全く違う。27語の中には独立語もあれば、語素（モルフィーム、意味を持つ最小の言語単位）として新語を構成するものもある。本稿では、それらを独立語と非独立語とに分けることにする。独立語の数量が最も多い。言語の交流は幅広く社会生活のあらゆる面に及んでいるので、独立語をさらに社会類、文化類、生活類と簡単に分けることにする。下表の通りである。

独立語	社会類	辯护士、过劳、过劳死、就任、親子、新人类、通勤、职场、物流
	文化類	处女作、理念、空手道、原罪
	生活類	定食、工房、人气、人脉、仁丹、人间蒸发、完败、完胜、前卫、量贩店、卖场、手账
非独立語	生活類	超（一流）、（饼）屋

4. 新語来源の考察及び論証

生活類の新語が大多数を占めているので、生活類から日常生活に密に関わる8語、社会類から社会普遍現象を代表する3語、文化類を兼ねるため2語を取り上げ、「あいうえお」順に順次深く考察・分析する。中国語の解釈は主に《現代漢語詞典》第六版に引用されたものであるのに対し、日本語の解釈は主に『新明解国語辞典』第七版（三省堂、2011年）に引用されたものである。場合によっては『旺文社国語辞典』第九版（旺文社、1998年）、『大辞林』第三版（三省堂、2006年）、《辞海》縮印本（上海辞書出版社、1979年版）などの解釈を引用することもある。

4.1 独立語

4.1.1 社会類

a) 過勞、過勞死 ⇒ “过勞、过勞死”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	過勞	かろう	体や頭脳を使いすぎて、疲労すること。	『大辞林』 第三版
	過勞死	かろうし	業務上などの過重な精神的、肉体的負担が原因となって急死すること。	
中国語	过勞	guolao	过度劳累。	《現代漢語詞典》 第六版
	过勞死	guolaosi	因过度劳累而致死。	

「過勞死」現象は1970～80年代の日本經濟繁栄期に最初に出現したものである。日本經濟の發展につれて「過勞死」と「過勞」は日本特有の社会現象となり、重大問題となった。1988年、日本の弁護士と医者により開設された「過勞死110番」は「過勞死」という概念を日本人の心に根付かせた。早期の中国の新聞は日本の「過勞死」問題を次のように報道していた。

(1) 任何事情都具有两面性。日本社会的这种高效率，也产生了一些负效应。“过勞死”就是在日本报纸上出现频率很高的一个词，它专门指40岁左右的壮年男子因工作过于疲劳，精神高度紧张而猝然死亡的现象。

（《人民日报》1995年2月）

(2) 疲劳是人类的第一病因。于是，日本统计出有一半以上的成年人有“过勞死”之忧；德国人把疲劳视为90年代的第一病症；美国政府则投入很大力量研究对付“慢性疲劳综合症”。（《人民日报》1995年12月）

(1) から分かるように、「過勞死」にダブルクォーテーションマークを付けていることと日本に関する内容であることは、日本の新聞からそのまま引用したことを示している。故に、この言葉は日本から中国に伝わってきたと判断できよう。

改革開放後、特に90年代の我が国では經濟の高度成長期を迎え、人々は生活や仕事などのストレスも増える一方であった。それに伴い疾病も増えつつあった。「過勞死」という表現は分かりやすく使いやすいため、そのまま我が国に取り入れられ、全国民に関わる社会問題をタイムリーに伝えたのであ

る。

b) 通勤 ⇒ “通勤”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	通勤	つうきん	一する【自サ】勤務先へ通うこと。	『新明解国語辞典』第七版
中国語	通勤	tong qin	乘坐公共交通工具上下班。通勤车、通勤族。	《現代漢語詞典》第六版

まず、構成から見てみよう。日本語の「通」は『新明解国語辞典』第七版では「①とおる。通行・通風・開通。②行き来する。通学・通商・交通」と解釈され、「勤」は「①力をつくして働く。勤務・勤勉・忠勤・精勤。②(会社などに) 務める。勤続・出勤・欠勤・通勤・転勤」と解釈されている。二つの字を合わせると、“上下班”(勤務先へ通うこと)になるのが自然である。中国語の“通”は《現代漢語詞典》第六版では“①没有堵塞, 可以穿过; ②用工具戳, 是不堵塞; ③有路到达; ④连接, 相往来; ⑤传达, 使知道; ⑥了解; ⑦指精通某一方面的人; ⑧普通, 一般; ⑨通顺; ⑩整个, 全部; 用于文书电报等。”と解釈されている。明らかに“来回”(行き来する)という意味はない。また、『康熙字典』(上海書店、1985年版)で“通”を調べたところ、“達也, 徹也, 畅也”という解釈が出てきた。この解釈から分かるように、古代中国語にも“来回”(行き来する)という意味はない。また、“勤”に“在规定的时间内准时到班的工作或劳动”という解釈がある。これは日本語の「勤」と同じ解釈である。しかし、“通”と“勤”とを組み合わせて、《現代漢語詞典》の“上下班”と簡単に解釈するわけにはいかない。

次に、歴史上の原因を探ってみよう。周知のように、日清戦争後、我が国の東北地方を走る鉄道は日本人に支配されることになった。鉄道会社の管理体制、技術標準、技術用語などには直接日本の漢字が用いられた。その中の一部が解放後も今日まで使い続けられている。その中に“通勤”があった。今になっても鉄道関係者の間では毎日の出退社のことを“跑通勤”と呼んでいる。その他の業界では、この言葉はほとんど使われていない。

次は“通勤”を新語として中国語で使用している例である。

(1) 在东京，由于上下班时间公共交通十分拥挤，致使“通勤”（上下班）被看作是一件痛苦之事，有人甚至把“通勤”称为“痛勤”。

（《人民日报》1994年第2 四半期）

(2) 其次，采用弹性工作时间制。采用错开出勤时间和分散休息日等措施，缓解交通高峰的压力。某工厂现有员工5000人，以前每当上下班前后，通勤者蜂拥而至，造成与之相连干线道路的堵塞。

（《人民日报》1995年7月）

(1) は日本の事情を紹介するものである。“通勤”という言葉にダブルクォーテーションマークを付けた上、括弧に説明文も加えていることから、この言葉は当時国内に新出したばかりでまだ定着していないことが分かる。これにより、“通勤”が日本から伝わって《現代漢語詞典》第六版に収録され日本来源語となったという結論になる。

4.1.2 文化類

a) 空手道 ⇒ “空手道”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	空手	からて	①持っているべきものを何も持っていない状態。素手。②沖縄に伝わる、伝統的な武術（護身術）。素手で突き・受け・蹴りの三方法を基本とする。「唐手」とも書く。	『新明解国語辞典』第七版
	空手道	からてどう	攻撃を粉碎する受け技と、蹴り、突き、打ちの3種の攻め技を基本とする護身武術で、格闘技の一種。競技法は、組み手試合と型試合の2種があり、以前は「唐手」と書かれた。中国拳法の影響を受け、琉球王朝と薩摩藩による禁武政策のもと、沖縄で発達した。1922年、文部省主催の体育展覧会で紹介され、日本本土に普及した。1964年に各流派が統合され、全日本空手道連盟が発足した。	『スポーツ用語がわかる辞典』（講談社）
中国語	空手道	kong shou dao	①日本的一种拳术，源于中国少林寺的技击。不使用器械进行格斗，分为进攻和防御两部分。②比喻不付出本钱或代价而取得回报的招数。	《現代漢語詞典》第六版

空手道の発祥地は歴史上の琉球王国と考えられている。その起源には諸説

があるが、その中で最も学術界に認められているのは次の一説である。1392年に閩人三十六姓は明の洪武帝より琉球王国に下賜され、那覇港付近で久米村を建て、中国の先端技術を琉球に持ってきた。中国の拳法も伝わり現地の格闘術である琉球手と結び付き、今日の空手道の原型となる唐手へと発展した。この説は即ち「久米三十六姓輸入説」と呼ばれる。1994年、第12回広島アジア競技大会で正式競技として空手道を実施することになり、世界にも認められるようになった。

空手道は中国ではまだ始まったばかりである。1970～80年代に空手道をやする人が出始めた。改革開放の深化に伴い対外交流も拡大されつつあり、空手道も民間ルートから中国の多くの省や市へ伝わるとともに空手道に関わる訳書も多く出版されるようになった。空手道の発展のもっとも迅速な地区は上海である。中国（香港、マカオ、台湾を除く）へは銘苧拳一により伝わったのである。1990年にブラジル大統領や在上海日本国総領事館の推薦で、銘苧拳一は当時上海市長を務めた朱鎔基の力を借り、上海市体育委員会外事所の斡旋により、自費で中国初の空手道教室を創設した。

中国は“空手道”をそのまま取り入れ、日本語本来の意味を吸収しただけでなく、さらにその意味を派生させた。我々が今言う“空手道”は“有名无实；袖手旁观；没有本钱的生意。”という意味にも使われる。例えば、

(1) 对这种情况，何光远部长常说“机电部是空手道、喊口号”。

（《人民日报》1993年1月）

(2) 自有资金相配套。但调查中发现，绝大部分个体农民或企业都是玩“空手道”，自有资金根本不到位，导致了大量工程被迫中途“下马”。

（《人民日报》1996年1月）

(3) 外商牵着鼻子走，损害了国家利益。有的项目外资迟迟不到位，玩“空手道”，实际是在利用中方资金；有的已承诺出口比例，却不按比例执行。

（《人民日报》1996年9月）

b) 理念 ⇒ “理念”

語種	表記	読み方	解釈	出典
日本語	理念	りねん	何を最高のものとするかについての、その人（面で）の根本的な考え方。	『新明解国語辞典』第七版
中国語	理念	li nian	①信念；②思想。	《現代漢語詞典》第六版

「理念」はギリシア語 idea の訳で、原意として理性概念を指すが、本来は哲学用語であり、通常思想を指した。「理念」は最初にヨーロッパから訳語として日本に伝わったのである。その背景には、1860年代に西側資本主義の工業文明の衝撃を受け日本が実施した明治維新があった。当時は西側社会の文化や習慣を学び西側の著書を翻訳するよう提唱していた。その後、この言葉はまた日本で“根本的看法、最高意境”（根本的な見方、最高の境地）という意味も派生させたのである。

青空文庫からは次の通り日本の早期の作品に使用例を見つけた。

- (1) 若しも前章に述べし所の如く女子の本分にして私的生活方面して社會上に於ける任務も違ふこととなら、教育の理念の上にも相異を生ず然るに生活内容に關して男女間に相違が存することとなれば當然の結果と
(略) (『女子教育の理念』第二十九卷、吉田熊次、1937年)
- (2) 私の中国政策に対する基本理念の提言は、もとより主観的なものではことに、いささかなりとも脾益する所あらばと念じたためにほかならない。(『中国政策の基礎理念』国際日本協会、五十嵐隆、1961年、p.1)
また、次は、筆者が CCL コーパスで“理念”を検索したときに出てきた中国語の新語としての最も早い使用例である。

- (1) 香港读者马丁说：“大陆报刊文章一般都是理念较强，人情味不够，尤其是一些介绍领导人的文章更是干巴。(《人民日报》1993年3月)
- (2) 每个孩子的具体期望是否合乎实际，教育方法是否得当，是否囿于旧理念只把成名成家作为孩子唯一的出路。(《人民日报》1993年4月)
- (3) 从认识到实施之间，可操作性的理念和法则是不可缺少的中间节。(《人民日报》1993年12月)

以上の使用例から、“理念”という語が1990年代に日本から中国へ伝わったのであることが分かる。中国語に入ってからさらに“观念、观点、见解”という意が派生したのである。

4.1.3 生活類

a) 売場 ⇒ “卖场”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	売場	うりば	①〔品物や切符などを〕売る場所。②売 るのにいい時機。	『新明解国語辞典』 第七版
中国語	卖场	maichang	比較大的出售商品的場所。如，倉儲式卖 場。	《現代漢語詞典》 第六版

辞書などで検索したが、古代中国語には“卖场”という言葉は見つからなかった。また、CCLコーパスで検索したが、古代や近代の文学作品にも“卖场”はなかった。日本の文学作品に「売場」という言葉が最初に出たのは次の通りである。

- (1) 階段の花売りについてはどうも心当たりがない。しかしことによると前日新宿の百貨店で造花の売り場の前を通ったときの無意識の印象が無意識な過程を通じてこれに関係しているのかもしれない。

(『三斜晶系』寺田寅彦、1935年、中央公論)

次は、“卖场”が中国語の新語として現代の新聞や文学作品に使われた使用例である。

- (1) 元月18日，笔者随着涌动的人流来到辽宁省普兰店市供销大厦，发现卖场的摆布有了新变化：原来靠窗摆设的一溜货柜不见了，取而代之的是10多条专供顾客休息的长板凳，中间还放一张茶桌，上面摆着热水瓶、茶杯。（市场报1994年）
- (2) 人生是一个大卖场，只是各人所售的商品不同而已，比如政治家出售权术，教授卖弄知识，作家出卖文字……

(《屠夫看世界》当代作家、陆步轩)

以上の使用例から、「売場」という言葉が最初に日本人により使い始められ、90年代頃に現代中国語に伝わり“卖场”として使われるようになった

ことが分かる。

b) 人脈 ⇒ “人脈”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	人脈	じんみゃく	利害関係・主義主張・同郷・姻戚などのどこかで一脈のつながりのある、一群のエリートたち。〔縦の関係にも横の関係にも言う〕	『新明解国語辞典』第七版
中国語	人脉	ren mai	指人各方面的社会关系。	《現代漢語詞典》第六版

日本でもっとも早く「人脈」を収録したのは『日本国語辞典』第一版(1974年)である。しかし、“人脈”という漢字の組み合わせは古代文献にすでに出ており、「中国古典数字工程語料庫」というコーパスから次の使用例を見つけた。

(1) 人皮应天，人肉应地，人脉应人，人筋应时，人声应音，人阴阳合气应律，人齿面目应星，人出入气应风，人九窍三百六十五络应野。

（《黄帝内经·素问》第五十四篇）

(2) 故行水者，必待天温，冰释冻解，而水可行，地可穿也。人脉犹是也。

（《黄帝内经·灵枢》第七十五篇）

この2例の“人脈”は現代中国語の“人脉”と意味が明らかに違う。古代中国語にある“人脈”は人間の経脈を指す実義名詞であるのに対し、現代中国語の“人脉”は人間関係を指す抽象名詞である。言い換えれば、二者は同形異義である。

台湾でもっとも早く“人脉”を収録したのは『新編国語日報辞典』第一版(台湾、国語日報出版社、2000年)である。これにより“人脉”が新語として最初に日本から台湾に伝わったことを説明できる。次は、“人脉”が中国語の新語として使われた使用例である。

(1) 又据日本某大企业的统计，在6位研究所所长和21位管理研究开发工作的中层干部中，有5位所长、13位中层干部具有从事生产、销售等研究开发以外的工作经历。通过岗位轮换和人员流动，企业加强了技术部门与生产、销售等部门之间的相互联系，形成了为促进技术进步所需要的、分布

于各个部门关键岗位的“人脉”（人际关系），加强了处理部门间的矛盾、摩擦（这种矛盾、摩擦在技术革新过程中更容易发生）的能力，从而使企业技术进步的传动机制借助“人脉”这个媒介而得以更好地发挥作用。

（《人民日报》1993年2月）

(2) 这一看法不是没有根据的。(一) 从实力基础看，李登辉是手中握有权力机器的人，无论是政治资源、人脉资源或财力资源，都是彭明敏无法与之相比的。这一点彭明敏不会不清楚。（《人民日报》1996年2月）

(3) 新移民，尤其是来自广东省以外的新移民，由于语言不通、生活习惯不同、人脉关系缺乏等因素，来港找工格外困难。（新华社2004年新闻稿）

(1) は、筆者が CCL コーパスで“人脉”を検索したときに出てきた中国語の新語としての最も早い使用例である。この例では“人脉”という言葉にダブルクォーテーションマークを付けた上、括弧に説明文も加えている。文の内容も日本のことを紹介するものである。これは、この“人脉”が中国語固有ではなく、日本語から借用されたことを示している。(2) と (3) では台湾のことを紹介していることから、“人脉”という言葉が最初に台湾地区で使われていたという事実が分かる。その影響を受けて中国内陸部でも使われるようになったわけである。

c) 手帳 ⇒ “手账”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	手帳	てちょう	心覚えを書きつけるための小さな帳面。 〔生活上必要な知識や条項を載せた便利な冊子の意にも用いられる。〕	『新明解国語辞典』 第七版
中国語	手账	shou zhang	小的记事簿。	《現代漢語詞典》 第六版

日本語の「帳」は『大辞林』第三版（三省堂、2006年）で「①とばり。たれぎぬ。カーテン。帳下・開帳・几帳・玉帳。②ものを書くための冊子。ノート。帳簿・帳面・記帳・台帳・通帳・筆記帳。」と解釈されている。明らかに“记事簿”（ノート）という意味がある。しかし、中国の“帳”は《辞海》縮印本（上海辞書出版社、1979年版）で“①张起来作为遮蔽的用具。通常用布帛做成。如蚊帐；帐幕；营帐。②亦作“账”。钱物出入的记录。如：

帳目；帳簿；帳戶。”と解釈されている。また、中国語の“帳”は《辞海》縮印本（1979年版）で“本作“帳”①关于银钱财务出入的记载。如记账；算账；账目；账簿。②债务。如欠账；要账。”と解釈されている。いずれも“记事簿”（ノート）という意味はない。中国語の造語法により、“手”と組み合わせた“手帳”にしても“手账”にしても“记事簿”（ノート）という意味を生むことはあり得ない。青空文庫で検索し見つけた早期の日本作家である久生十蘭の「黒い手帳」と芥川龍之介の「保吉の手帳から」には「手帳」という言葉が使われていた。

(1) 黒いモロッコ皮の表紙をつけた一冊の手帳が薄命（ファタール）なようにすで机の上に載っている。一輪差しの水仙がその上に影を落している。一見、変哲（へんてつ）もないこの古手帳の中には、ある男の不敵な研究の全過程が書きつけられてある。（「黒い手帳」久生十蘭）

日本人はほとんど手帳を携帯しているそうである。「手帳」という言葉は幅広く使用され、すでに日本人の思想に入り込んでいるほどである。手帳の活用で、順序立てた生活ができる。従って、これからやる予定のことを随時記録するために、それを携帯する人は多くなってきた。上述の分析から、“手账”という言葉が日本から伝わってきたことが分かる。そして、なぜ“手帳”ではなく、“手账”として受け入れたのかは今後の課題としておこう。

d) 人気 ⇒ “人气”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	人気	にんき	①その社会で好ましいものとして受け入れられること。〔特に人については、マスコミなどを通して話題にされる芸能人やスポーツ選手などについて言う〕②〔いい・悪いという観点から見た〕その土地一般の気風。じんき。③取引上に現われる一般の傾向。	『新明解国語辞典』第七版
中国語	人气	ren qi	①人的氣息。②人或事物受欢迎的程度；③〈方〉指人的品格。	《現代漢語詞典》第六版

“人气”は本来の意味では人の意気、気質、感情などを指す。中国古代と

近代の歴史文学に記載されている。例えば“未达人气”（莊子『人世間』）と“边样的辣手，只要略有人气者，是万万预想不到的。”（魯迅『華蓋集・空談』）においては、この意味を用いている。

しかし、日本語の「人气」は“人望，人缘，受欢迎”などの意味を持っている。これは《現代漢語詞典》第六版の解釈と同じである。

上述から分かるように、“人气”という言葉は中国でも古くから使われていたものの、その意味は“人望，受欢迎”ではない。改革開放に伴い、この言葉はまた日本から中国に伝わり、“人望，受欢迎”という新たな意味を与えられ、現代中国語の中で生きていくわけである。例えば、芸能界でよく耳にする“人气歌王”“人气天王”などの言い方はこの新たな意味を使っているものである。また、次のような報道でもよく見られる。

(1) 舞姿潇洒、活力四射、歌声甜美、个性鲜明，使得季红近年来在歌坛
颇得人气。 （《人民日报》1999年4月）

また、「人气」は中国語に伝わってから“热闹，受到瞩目”という意も派生した。例えば、

(2) 随着新学期的开始，暑期红火的网吧渐渐沉寂，各大书店人气正旺。
“穿梭书店要轻装，光顾网吧加衣裳。”这是新学期开学伊始，天津市不少
学生对书店与网吧人气两重天的形容。 （《市场报》2001年9月）

その後、また“人心，凝聚力”という意味も与えられるようになり、ビジネスや証券にもよく使われる。例えば、

(3) B股市场最关键的问题是人气，没有成交量，即使足向上突殖也是假的。但这个市场流通性很差，所以弹性就强，一旦人气聚集，要涨也是很快的。而人气的聚散很大程度上取决于基本面的情况。

（《国际金融时报》2001年9月）

e) 人間蒸発 ⇒ “人間蒸发”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	人間蒸発	にんげん じょうは つ	まるで蒸発したように、ある人が不意にいなくなり所在不明となること。昔の神がくしのたぐい。	『旺文社国語辞典』 第九版
中国語	人間蒸发	renjian zhengfa	比喻人或事物突然消失，不知去向。	《現代漢語詞典》 第六版

言葉の意味から見れば、中国語の“人間”は「人類社会」「世間」を指すのに対し、日本語の「人間」は「世間」の意味ではなく、「人」「人類」を指す。「人間蒸発」という言い方は、1967年に公開された今村昌平監督の映画名に最初に使われたのである。1971年に『岩波国語辞典』第二版に収録された。1998年に作家の村松友視は「人間蒸発」という小説を発表した。探偵社の人が事件で出かけ、オフィスには誰もいなく、まるで蒸発したようだという内容があった。本来の意味では突然消えることであり、人には使えるが物には使えない。これは隠喩からの造語であり、いきいきとし、また表現力に富んでいる。中国語にはもともとなかったので、“人間蒸发”という言葉が日本語から来たのではないかと判断した。中国語に入り、その意味も拡大され、人にも物にも使えるようになった。例えば、

(1) 一颗重达108克拉的“钻石”标价850万美元，“买家”却在交易时设套，实施麻醉抢劫后人间蒸发。(《南方都市报》2008.06.12)

(2) 一公司委托大吉物流公司运送价值18万元的医疗设备，谁知货物发送后便查无音讯，昨日，记者调查发现大吉物流竟“人间蒸发”了。

(《武汉晚报》2008.08.08)

f) 量販 ⇒ “量販”

語種	表記	読み方	解 釈	出 典
日本語	量販店	りょうは んでん	家電や衣料など同一規格の商品を、大量に仕入れて安く売る店	『デジタル大辞泉』
中国語	量販店	liang fandian	以批量销售为主的商店，价格多比一般零售商店便宜。	《現代漢語詞典》 第六版

日本語の「量販店」は「大量に売るスーパー」という意味である。この言葉から派生した量販式経営は透明、自助、安価という消費方式を指す。1983年量販店は台湾に現れ、その後中国内陸に入った。また、「量販KTV」などの新語もランダムに現れてきた。現在、量販店はすでに上海、武漢、成都、鄭州などの都市に根付いている。

次は90年代に中国内陸において台湾のことを報道したものである。

(1) 3年前、台北出現一家万客隆量販店，目前万客隆遍布全島南北各地，有10多家分店。 (1994年報刊精選10)

(2) 在台湾，貨倉式商場稱為“量販店”。 (1994年報刊精選10)

特に、例(2)では、量販店にダブルクォーテーションマークがついていることは、この言葉がそのまま引用されたことを意味する。当時この言葉は新出で未定着のままであったということが考えられよう。上述から「量販店」が台湾経由で日本から中国に伝わってきたことが分かる。これで中国語の“量販店”は名実とも日本来源語であると言えよう。

4.2 非独立語（生活類）

a) 超（一流）⇒“超（一流）”

語種	表記	読み方	解釈	出典
日本語	超～	ちょう	(造語) ①基準の(限度だと予測される)数量をこえた状態にあること。②[「一+形容詞・形容動詞」などの形で、接頭語的に]程度がはなはだしいことを強調する意を表わす。[口語的な表現]「一おもしろい/一大丈夫だ/一熟睡した」⇒【造語成分】	『新明解国語辞典』第七版
	超一流	ちょういちりゅう	極めて優れた技能や実績がある人、最上級の質を持ったものなどを意味する表現。	『日本語表現辞典』
中国語	超	chao	①超过。②超出（一定的程度或范围）③在某个范围以外；不受限制。④〈书〉跳跃；跨过。⑤姓。	《現代漢語詞典》第六版
			①跃上，跨过。孟子梁惠王上：“挟泰山以超北海。”②超出。③遥远。楚辞屈原九歌国殇：“平原忽兮路超远。”④怅然。	古代中国語
	超一流	chao yiliu	超出一流水平的、达到极高境界的	《現代漢語詞典》第六版

上の表から分かるように、日本語の「超」は接頭辞として使うことができる。造語成分として「一+形容詞・形容動詞」などの形で新語を作ることもしできる。しかし、古代中国語においても現代中国語においても、中国語の“超”は接頭辞としての使い方はない。つまり、“超+形容詞”のような造語は中国語の造語法に合わないしあり得ない。とすると、《現代漢語詞典》第六版に新出した“超一流”などは日本語の「超」を取り入れて新しく作られたものだと判断できる。同様に、《現代漢語詞典》第六版に未収録の、中国の若者でよく言われる“超可愛”“超漂亮”などは、日本語から伝わってきた“超”に中国の名詞や形容詞を結び付けて構成した流行語である。これらの新語は“超”という非独立語類に分類されてよかろう。この意味では語素としての“超”は日本来源語と断定できる。他の使用例は次のようである。

- (1) 据介绍，这一新的思路和滚动发展规划如能实现，到2000年，安玻公司不仅能够生产从25英寸到34英寸各种大屏幕、超大屏幕玻壳，还将开发成功代表当今世界最先进水平的液晶显示产品，年生产能力由现在的500万套达到4000万套，销售额突破80亿元，成为名副其实的“中国NEC”，并最终形成具有国际竞争力的跨国集团。（1994年报刊精选05）
- (2) 他们的超音速气流粉碎机，填补了国内空白，现已列入省级火炬项目，正在申报国家星火项目；盛箭电子有限公司，投资800多万美元，引进国际先进生产设备和专利技术，生产IN4148玻璃封装二级管，到八五期末，公司将形成年产值2000万美元的生产规模；以富士康为最大的电子公司已有的8个，都是国际一流的技术和产品。（1994年报刊精选09）

b) (餅) 屋 ⇒ “(餅) 屋”

語種	表記	読み方	解釈	出典
日本語	～屋	や	a. (接尾) ①ある語に添えて、その職業や人を表す。「植木一」②屋号・雅号の下に添える。「鈴一 (=本居宣長)」③人の性質を表す語に付け・軽蔑や批判の気持ちを表す。④職種を表す語に添えて、軽いあなどりや卑下の気持ちを表す。 b. 屋：①家。家屋。②屋根。	『旺文社国語辞典』第九版
	餅屋	もちや	餅を (ついて) 売る人 (店)	『新明解国語辞典』第七版
中国語	屋	wu	①房子。②屋子。③姓。	《現代漢語詞典》第六版
	餅屋	bingwu	出售西式糕点、面包等的比较小的店铺。	

上の表から分かるように、日本語の「屋」には「家、家屋」という意味があるが、接尾語としての用法が最も多い。つまり、名詞に添えて、その職業や人を表すことができる（商店を表すこともある）。例えば「技術屋」「何でも屋」「植木屋」「肉屋」「八百屋」など。また、《現代漢語詞典》第六版の解釈から分かるように、現代中国語の“屋”には接尾語としての用法はない。古代中国語においてはこのような用法があるかどうかを確認するために、《辞海》縮印本（上海辞書出版社、1979年版）で“屋”を調べたところ、“①房屋，屋舍。诗秦风小戎：“在其板屋，乱我心曲。”②泛指覆盖之物。礼杂记上：“素棉以为屋而行。”此指盖棺的小帐。史记项羽纪：“纪信乘黄屋车。”此指车盖。今作“幄”。③古制六尺为步，步百为畝，畝百为夫，夫三为屋，屋三为井。”という解釈が出てきた。明らかに接尾語としての用法はない。

要するに、現代中国語においても古代中国語においても“屋”は接尾語として使うことができない。現在街の至る所で見られる“咖啡屋”“餅屋”“精品屋”などの商店の看板は皆日本語の「屋」の接尾語としての用法を利用し作った造語である。つまり、“屋”は中国語の語素として我々の現代社会に入り、中国人に認められ使われるようになったわけである。

5. 原因分析

5.1 日本来源語が現代中国語に伝わった原因

客観的な原因：

改革開放以来、中国では巨大な変化が起き、新しいものや考え方が次から次へと現れてきた。日本の商品、管理方法、飲食、文化、言語は再び中国人が勉強し借用する対象となった。政治、経済、教育、文化などの分野における中日交流が盛んになるにつれて、両国の言語交流も頻繁になった。言語はコミュニケーションの媒介として新語を取り入れるのが必然である。

飲食面を例に見てみよう。近年来、日中両国の絶えぬ交流に伴い、日本本土の飲食文化は留学生や観光客などを經由して中国へ持ち込まれるようになった。例えば寿司、刺身、天婦羅。これらはいずれも日本独自の飲食文化である。中国の飲食文化は吸収性と包容性に富んでいるので、中国人はそれらを自らの飲食文化に持ち込んで飲食を多様化させた。

主観的な原因：

改革開放以来、中国人は、特に若者たちは外国文化に極めて熱情を抱き、外国文化を代表する借用語にも深い興味を持つようになった。そして、伝統に従わず、古い表現を捨て、新しいものを求めるようになった。彼らは外来語が高級感、バタ臭さ、新鮮感を与えてくれると思っている。例えば、普通の中国人が言っている“盒飯”を“便当”と呼ぶ若者は少なくない。ネット流行語“宅急送”も現在の中国人の若者の生活実態を反映している。休日家に籠るのが好きな若者は多く、お腹が空いたら外食を頼んだりして、一步も外に出ないのんびりした生活を送っている。“宅急送”はそれに合わせ日本からそのまま伝わってきたのである。また、日本来源語のほとんどは外来の思想や概念を漢字化させたものなので、中国人には分かりやすく受け入れやすい。他言語の外来語より取り入れられやすいのである。

コミュニケーション上の原因：

語彙は言語において非常に敏感な部分であり、かなりのスピードで変化しアップデートしていく。社会生活に新しいものが一旦現れたら、それに相応

する語彙が出てくる。言語コミュニケーションは生き生きとした活発な表現を重んじ、ぎこちなさや重複を避けようとする傾向がある。借用語は新しいものを反映し新概念を提供するものである。借用語の使用で言語コミュニケーションの目的を達することがある。例えば、“物語”。“物語”はそれ自体“故事”(ストーリー)の意味を持っている。しかし、日本語では「故事」のほか、「談論、談話」などの意味もあり、中国語の“故事”より表現力が強い。それで中国語に取り入れられたのである。

5.2 《現代漢語詞典》第六版に「日」という来源の明記が漏れた原因

漏れた原因は2点あるのではないかと考えている。一つはすでに古代中国語にあったという理由で日本来源語ではないとするのが当たり前だと臆断し更なる考証をしようとしなかったこと。例えば“人气”“人脉”など。もう一つは、恐らく詞典編纂者が日本語における日本来源語疑似語の由来や経緯を分析する余裕がなかったことであろう。

《現代漢語詞典》は中国全土ひいては全世界で影響力をもち、知名度も高く、ほかの科学研究においても指針的な詞典であるからこそ、その權威を守るべきである。来源の分析は全面的尚かつ正確でなければならない。また、編纂時に各語種の言語専門家の意見を考慮に入れその厳密さと正確さを確保するべきであろう。

おわりに

現在、日本語から伝わった外来語は現代中国語において幅広く使われており、使用頻度も高い。その語数は正確な統計が難しい。ある学者によると、「人文科学と社会科学用語の約70%は日本来源語である」(矯遠峰等《新日漢詞典》増訂版 [M]、瀋陽遼寧出版社、2002) そうである。これからもさらに日本来源語が増えるであろう。筆者は、本稿で一部の日本来源語疑似語を対象に、日本から伝来した事実を論証してみた。今後の現代漢語詞典の編纂などの参考になればと思う。

また、本稿ではサンプリング調査法で《現代漢語詞典》全書の四分の一しか調査していないので、完全な研究とは言えない。今後引き続き更なる研究を進めてみたい。

参考文献

- 耿凱 (2013) 《現代漢語中日語借詞の伝入》[J]. 《佳木斯教育学院学报》2013年第8期
- 顧江萍 (2000) 《試析当代日語借詞对漢語的滲透》[J]. 北京：漢字文化
- 顧江萍 (2007) 《漢語中日語借用詞研究》[D]. 厦門大学
- 矯遠峰等 (2002) 《新日漢詞典》增訂版 [M]. 瀋陽：遼寧出版社
- 劉正琰・高名凱 (1958) 《現代漢語外来詞研究》[M]. 中国文字改革出版社
- 彭広陸 (2012) 《從漢語的新詞語看日語的影響——說「人脈」》[J]. 《日語學習与研究》2012年第4期
- 沈国威 (1994) 《近代日中語彙交流史》[M]. 東京：笠間書院
- 史有為 (1991) 《異文化的使者——外来詞》[M]. 吉林教育出版社
- 司艷鶴 (2014) 《改革開放後的日語借詞》[J]. 《東方文化週刊》2014年第8期
- 孫遜 (2015) 《現代漢語中日語外来語源考辨》[J]. 《外語教学》2015年第3期
- 鄭奠 (1958) 《談現代漢語中的「日本語詞彙」》[J]. 《中国語文》1958年(2)
- 朱京偉 (2010) 《「和製漢語」的結構分析和語義分析》[J].
- 《辭海》縮印本 (1979) [M]. 上海辭書出版社
- 《辭源》合訂本 (1988) [M]. 商務印書館
- 《古代漢語詞典》第二版 (2014) [M]. 商務印書館
- 《現代漢語詞典》第二版 (1983) [M]. 商務印書館
- 《現代漢語詞典》第六版 (2012) [M]. 商務印書館
- 『旺文社国語辞典』第九版 (1998) [M]. 旺文社
- 『新明解国語辞典』第七版 (2011) [M]. 三省堂
- 『大辞林』第三版 (2006) [M]. 三省堂
- ※中国語書籍名も、便宜上、日本の字体にて表記した。

吳夫迎 Wu Fuying 西安交通大学城市学院専任講師 専門：日本語教育・翻訳論